

発電所対策本部運営訓練を実施しました

9月27日、原子力災害発生時における発電所対策本部の運営訓練を実施しました。

今回の訓練は、地震により原子炉が自動停止、その後、全ての電源が失われたことにより、原子炉へ冷却水を送るための全てのポンプが停止し、原子炉の水位が低下したとの想定で行いました。

訓練では、発電所対策本部内での指揮・命令や情報共有、社内外への通報・連絡（一部模擬）などを行い、対策本部が有効かつ円滑に機能することを確認しました。

今後もさまざまな訓練を積み重ね、災害対応力の維持・向上に努めてまいります。



次々と発生する事象に対して、的確な指示・伝達を行う訓練参加者

東通中学校の1年生が発電所を見学しました

9月21日、東通中学校1年生の「職場見学」に協力し、生徒40名を対象に発電所の見学会を実施しました。

当日は、発電所の概要と原子力発電のしくみについて説明した後、発電所のさまざまな安全対策設備などを案内しました。生徒からは、「電気を作るしくみや電気の大切さを学ぶことができた」、「原子力発電所の見学を通じ、原子力に関心を持った」などの感想が寄せられました。

当発電所では、今後も地域の未来を担う子どもたちの健やかな成長を応援してまいります。



発電所の概要説明



安全対策工事の現場見学（淡水貯水槽）

放射線看護に関する現場研修を実施しました



除染室での処置を学ぶ研修生

9月26日、27日の両日、放射線看護を学ぶ弘前大学大学院保健学研究科の大学院生2名を対象に現場研修*を行いました。

研修では、発電所員による講義や現場実習を通じて、原子力発電所における労働者の健康管理や、万一、けが人が発生した際の処置の流れ、被ばく医療に係る関係機関との連携体制などを学んでいただきました。研修生からは、「発電所内でけが人が発生した際の対応を知ることができて良かった」、「実際の現場を見たことで、理解を深めることができた」などの感想が寄せられました。

今後も、原子力関連分野を支える人材の育成支援に積極的に取り組んでまいります。

※弘前大学大学院の保健学研究科「放射線看護高度看護実践コース」の現場実習に協力したものです。

トントウビレッジにおいて能舞を披露していただきました

東通原子力発電所トントウビレッジにおいて開催された「そば街道&秋まつり（10月7日、8日）」の初日、蒲野澤青年会・蒲野沢子ども会の皆さまに能舞「翁」「番楽」「かご舞」「三番」を披露していただきました。

伝統の息吹を感じさせる迫力ある演舞が訪れた多くの方々を魅了しました。



蒲野澤青年会「翁」の演舞



蒲野沢子ども会「番楽」の演舞